別表第２　データセンターの新設及びデータセンターに係る設備の新設又は更新をする場合の望ましい取組並びに基準エネルギー効率

データセンターの区分	データセンターの新設及びデータセンターに係る設備の新設又は更新をする場合の望ましい取組	基準エネルギー効率
ハウジング型データセンター	下記の取組等によりエネルギーの使用の合理化に努めた上で、設計時ＰＵＥの値を1.28以下とすること。 ①　情報処理設備が要する冷却性能の変化への対応や廃熱の有効利用が可能なデータセンターとなるよう設計及び付帯設備の選定を行うこと。 ②　データセンター内の温度や湿度の管理に要するエネルギーを低減できる地域その他のデータセンターによるエネルギーの効率的利用を実施する上で地理的な優位性の認められる地域での新設を検討すること。 ③　サーバ型電子計算機室内の冷却設備は、必要とする冷却性能に応じ、エネルギー効率及び熱搬送効率の高い設備の選定を優先し、電力密度が高くなる場合には、液体冷却方式の採用を検討すること。 ④　サーバ型電子計算機室外の冷却設備は、自然エネルギーの活用により冷却に要するエネルギーの効率的利用を実施できる設備の選定を優先すること。 ⑤　ホスティング・クラウド（オーナー）型データセンターにあっては、動作可能な温度及び湿度の幅が広く高電圧に対応できる等、付帯設備のエネルギーを効率的に利用できる情報処理設備の選定を優先すること。	下記の取組等によりエネルギーの使用の合理化に努めた上で、データセンターの稼働開始後２年が経過した日を含む年度の翌年度以降のＰＵＥの値を1.3以下とすること。 ①　情報処理設備の運用に当たっては、冷却設備その他の建物及び付帯設備の設備容量に対して適切な稼働率となるよう、稼働状況の見直しを行うこと。 ②　情報処理設備の稼働状況を把握し、不要な情報処理設備の廃止及び撤去その他の設備の適切な管理を実施すること。 ③　サーバ型電子計算機室内の冷却設備の運用に当たっては、適切なエアフローの実現等サーバ型電子計算機室内の空調機の送風効率の向上その他の冷却効率の向上のための取組を継続的に実施すること。また、情報処理設備の推奨運用温度に応じて、管理温度及び湿度を見直し、過冷却を防止すること。 ④　高電圧対応の情報処理設備に対しては、高電圧で給電を行うことで送電損失を低減すること。 ⑤　データセンターで発生する廃熱の有効利用のための運用上の工夫を検討すること。
ホスティング・クラウド（オーナー）型データセンター		

（新設）